

講演会プログラム

※プログラムが変更される場合があります。

13:00～13:10 開会挨拶

耐久性向上

13:10～13:35 チタン箔を用いた鋼橋長寿命化技術

13:35～14:00 舗装体及びアスファルト混合物（機能性SMA）

14:00～14:25 積雪寒冷地における

ポーラスコンクリートの適用技術

環境・リサイクル

14:25～14:50 積雪寒冷地における

再生骨材コンクリートの適用技術

14:50～15:10 休憩

安全・安心

15:10～15:35 ランブルストリップスによる正面衝突事故対策

15:35～16:00 地表面変位ベクトルから

地すべりのすべり面を推定する技術

16:00～16:25 地盤・土構造物の内部物性構造イメージング技術

コスト縮減

16:25～16:50 複合地盤杭基礎

16:50～17:00 閉会挨拶

展示・技術相談 コーナー

12:30～17:15

上記時間帯においては、講演技術について、パネル展示による技術説明および技術相談を行っております。

ご質問・ご要望に
お応えします！



お気軽にお立ち寄り下さい。



開催日時 **2010年2月23日(火)**

午後1時～午後5時(開場、受付開始午後12時30分)

開催場所 **かでの2・7**

講演会：8F 820研修室

展示・技術相談コーナー：1F 展示ホール

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目

主催 独立行政法人土木研究所

共催 社団法人建設コンサルタンツ協会北海道支部

後援 国土交通省北海道開発局

お問合せ 独立行政法人 土木研究所

つくば中央研究所 技術推進本部

Tel.029-879-6800 E-mail: suishin@pwri.go.jp

寒地土木研究所 寒地技術推進室

Tel.011-590-4046

参加申込み 下記ホームページにてお申し込みください(～平成22年2月19日)

<http://www.pwri.go.jp/jpn/news/2010/0223/showcase.html>

参加費無料

お申し込みは、
土木研究所
ホームページを
ご覧ください。



【交通のご案内】

- JR 札幌駅南口より徒歩10分
- 地下鉄南北線 さっぽろ駅11番出口より徒歩8分
大通駅より徒歩8分
- 地下鉄東豊線 大通駅より徒歩8分

建設コンサルタンツ協会
認定CPDプログラム

現場に役立つ
最新技術を分かりやすく
紹介します

土研 新技術ショーケース

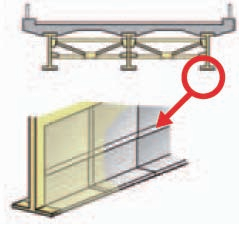
独立行政法人 土木研究所

2010 in 札幌

土研新技術ショーケースでの紹介技術

耐久性向上

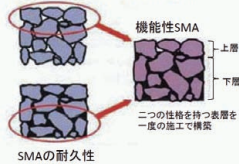
13:10~13:35 チタン箔を用いた鋼橋長寿命化技術



海上や海浜部など厳しい腐食環境に架設された鋼橋は、重防食塗装で防食されていますが、部材端部など塗料が付きにくい部位は発錆しやすく、重防食塗装の弱点となっています。この塗装の弱点部を補強する方法として、チタン箔を貼る技術を開発しました。この技術を適用することで鋼橋塗装の防食性能を向上させることができます。

13:35~14:00 舗装体及びアスファルト混合物(機能性SMA)

排水性舗装の排水・騒音低減機能



十分な耐久性を保持しつつ、走行時の安全性、環境保全性、快適性といった機能をバランス良く併せ持つ表層を有する舗装体とアスファルト混合物の開発を進めてきました。

本講演では、表層上層部が排水性舗装の機能を持ち、下層部が砕石マッシュアスファルト(SMA)舗装と同等以上の耐久性を持たせたアスファルト舗装体を一度の締固めで施工できる技術、機能性SMAを紹介します。

14:00~14:25 積雪寒冷地におけるポーラスコンクリートの適用技術



道路交通騒音の軽減策としてアスファルトを用いた排水性舗装が広く普及していますが、積雪寒冷地のような過酷な環境下では、除雪車による摩耗やタイヤチェーンによる損傷により早期の機能低下が問題となっており、高強度、高耐久、高機能を有する排水性舗装技術が求められています。

そこで、結合材としてセメントを用いたポーラスコンクリートを排水性舗装として適用するための技術について紹介します。

環境・リサイクル

14:25~14:50 積雪寒冷地における再生骨材コンクリートの適用技術



積雪寒冷地のコンクリート構造物は厳しい凍害・塩害環境にさらされるため、再生骨材コンクリートを適用する際には、耐凍害性や、凍結防止剤等による再生骨材中の塩分の影響等について検討する必要があります。

そこで、耐凍害性の確保に必要な再生骨材の品質およびコンクリートの配合条件を明らかにするとともに、再生骨材中の塩分が鉄筋腐食に及ぼす影響を明らかにし、積雪寒冷地における再生骨材コンクリートの適用技術を提案しましたので紹介します。

安全・安心

15:10~15:35 ランブルストリップスによる正面衝突事故対策

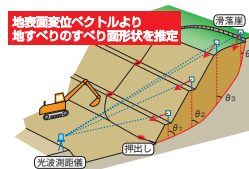


北海道の交通死亡事故の中で高い割合を占める正面衝突事故への対策として、道路に凹型の溝を連続的に設置するランブルストリップスの技術について研究を進めてきました。



ランブルストリップスの規格や施工方法、普及状況、その整備効果及び刊行した、「ランブルストリップス整備ガイドライン(案)」等について紹介します。

15:35~16:00 地表面変位ベクトルから地すべりのすべり面を推定する技術



切土斜面などで地すべりが発生した場合には、その特性や規模、特にすべり面の形状を把握し、迅速に緊急対策を行う必要があります。しかし、調査ボーリングによるすべり面の把握は、調査日数がかかる他、安全面にも問題があります。そこで、地すべり土塊の地表面変位ベクトルを用いて、迅速かつ安全にすべり面形状を推定する技術を開発しました。

16:00~16:25 地盤・土構造物の内部物性構造イメージング技術

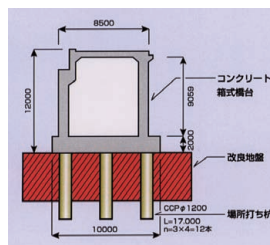


構造物の新規建設や既設構造物の防災・維持管理のためには浅部の地盤構造や物性分布を把握することが必要です。道路盛土や河川堤防などの土構造物も同様です。そこで浅部の地盤構造と物性分布をイメージングし、弱点箇所を効率的に抽出できる物理探査手法を研究・開発し、普及を図ってきています。

本発表では電気探査と表面波探査等を組み合わせる統合物理探査技術について、実施事例を交えて紹介します。

コスト縮減

16:25~16:50 複合地盤杭基礎



泥炭性軟弱地盤や液状化が想定される地盤では、水平抵抗を確保するために、杭基礎の多数配置と躯体の大型化が必要であり、コストの増加が課題となっています。

そこで、杭基礎の周辺に地盤改良を施し、増加したせん断強度を主にその水平抵抗として反映させる複合地盤杭基礎を開発しました。本技術により、杭本数の低減と躯体の小型化が可能となり、従来と比較して耐震性の向上と大きなコスト縮減を得ることができます。

独立行政法人 土木研究所

つくば中央研究所 技術推進本部

〒305-8516 つくば市南原1番地6

Tel.029-879-6800 <http://www.pwri.go.jp/>

寒地土木研究所 寒地技術推進室

〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号

Tel.011-590-4046 <http://www.ceri.go.jp/>

